

なんケア通信

第30回 南部圏域の地域包括ケアを考える会(なんケアの会)を開催しました。

開催日時：令和3年10月8日(金) 18:00~19:15

会場：南部市民サービスセンター「なんぴあ」 2階 地域文化ホール

参加者：20名(介護事業所関係者 13名、地域包括支援センター 1名、福祉用具事業所 1名、その他 5名)



演 題

『 秋田市社会福祉協議会の活動について 』

秋田市社会福祉協議会 事務局次長 兼 地域福祉課長 石井 誠 氏

新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、長い期間なんケアの会開催を延期しておりましたが、令和3年10月8日(金)およそ7か月ぶりに開催することができました。秋田市では新たな感染者はほとんどみられなくなりましたが、不織布マスク着用・手指衛生・検温・ソーシャルディスタンス確保を行い、十分な感染予防対策をとりながら開催いたしました。今回の参加人数は普段より少なめの20名でしたが、久しぶりの開催を喜んでくださり、運営側としても嬉しい限りでした。

今回のテーマは「秋田市社会福祉協議会の活動について」で、講師に秋田市社会福祉協議会事務局次長兼地域福祉課長の石井誠氏をお招きしました。秋田市社会協議福祉会(以後秋田市社協とする)の主な活動について、ひとつひとつ丁寧に説明していただきました。見守り訪問活動や介護予防事業などは、秋田のような超高齢化が進み独居や高齢者世帯の多い地域においては、なくてはならない活動だと感じました。また、生活福祉資金の貸付も多様なケースに対応されていました。なかでも秋田市社協独自の取り組みの「小口資金の貸付」は、一時的に生活が困難となった市民への心強いサポート体制であると思いました。

参加者の関心が高かったのは、令和4年1月開設予定の「権利擁護センター」の事業内容でした。講演後の質疑応答では多くの質問が寄せられました。センターの事業目的は、全国的に利用率が低い成年後見制度の利用を促進することだそうです。その中の、秋田市社協が法人として成年後見人となる「法人後見事業」は、少子高齢化の加速が見込まれる秋田市にとって、今後、非常に重要な支援となるのではないのでしょうか。

本日の講演では、地域福祉の維持向上のために、秋田市社協は多様な事業を手掛けていることがわかりました。改めて、医療・介護・福祉が繋がりをもちながら、三位一体となって地域包括ケアシステムを推進していく必要があると感じました。

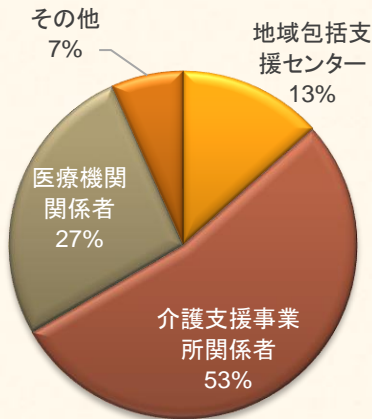
次回のなんケアの会は令和3年12月を予定しております。新型コロナウイルス感染症の動向により、自粛・中止させていただく可能性もございますので、あらかじめご了承ください。変更、詳細につきましては今後ホームページにて順次お知らせ致します。



アンケートの
集計結果

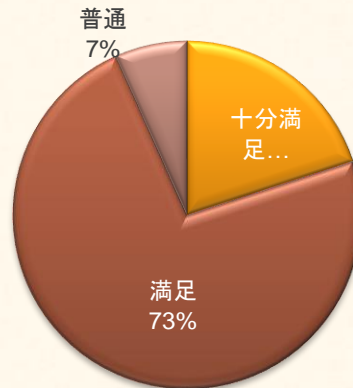


所属



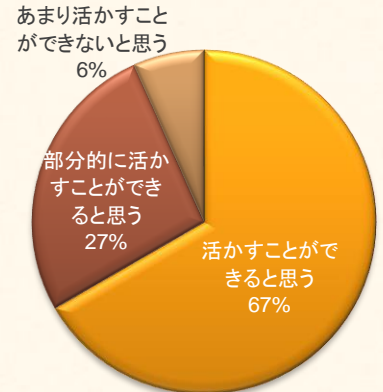
- 地域包括支援センター
- 介護支援事業所関係者
- 医療機関関係者
- 調剤薬局
- 御野場病院職員

なんケアの会に参加して、
いかがでしたか？



- 十分満足
- 満足
- 普通

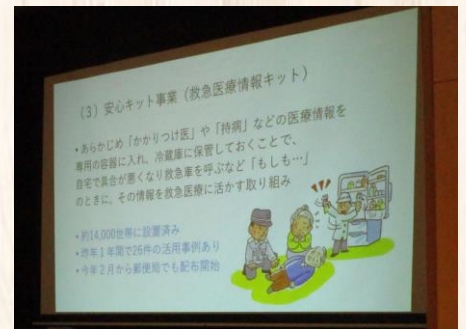
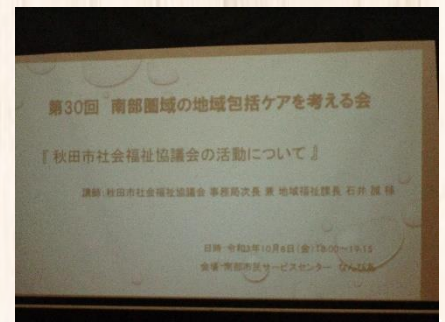
今後、地域での活動に活かす
ことができそうですか？



- 活かすことができると思う
- 部分的に活かすことができると思う
- あまり活かすことができないと思う

回収率：80.0% (アンケート配布：20名、回収：16名)

会場の様子と
皆様からの
ご意見・ご感想



ざっくりでしか知識がなかったので、講義をうけてとても勉強になりました。ありがとうございました。

介護支援事業所関係者

改めて確認する機会ができ、再認識できた。権利擁護センターを具体的に教えて頂きたい。

介護支援事業所関係者

市社協の活動を改めて聞かせていただき、お世話になっておりました。業務に活かせる貴重なお話ありがとうございました。コロナ禍でも感染対策して開催していただきありがとうございます。

地域包括支援センター

次回開催の
お知らせ

開催日時：令和3年12月3日(金) 18:00~19:15
会場：御野場病院 在宅リハビリテーションセンター(予定)

